



『日本の底力』

—— 強くて明るい
日本をつくる ——

自由民主党総裁候補 麻生太郎

**強くなくては日本ではなく、明るくなくては日本ではありません。
本来の日本、わたしたちの日本を、今こそ取り戻しましょう。
わたくしはその実現に、わたくしのすべてをかけて取り組む覚悟です。**

未来を見据えた 景気対策を 打ちます。

日本経済はいま、全治3年。短期集中・重点特化型の立て直しをします。当面の歪みを正して日本経済にバネをたくわえ、グローバル競争の中、駆け抜ける脚力を鍛え直します。必要なのは、未来のための改革です。それを果敢に続けます。

暮らしの不安を 取り除きます。

「不安」の反対語は「安心」ではありません。「希望」です。不安の深まる今は、むしろ好機です。不安がぬぐわれた時、希望がそれだけ明るくなります。年金・医療・雇用・子育て——。暮らしの不安、老後の不安をなくし、日本国民が本来もつ希望を広めます。日本はそれで、また力強く動き始めます。

逃げない政治、 責任もって 実行する政治を つくります。

これが、わたくしの行動のすべての前提あり、わたくしはその実現に一身を賭します。情熱と、経験の総量を注ぎ込みます。国民の信を広く求め、勝ち得ることによって、内閣の強い実行力を与えます。如何なる難題にもひるむことなく立ち向かい、解決の道筋を示し、政治への信頼を強固なものとしします。

日本には、底力があります。勤勉な国民、優秀な技術、強い企業と安全な社会、そして大きな金融資産。どれ一つとっても、どの国にも負けない強さがあります。悲観しなければならない理由などありません。底力を解き放てばよいのです。わたくしは、それをやりたい。やろうと思えます。強くて明るい日本は、わたくしの誇り。日本国民の誇りであるからです。

あそうたろう 麻生太郎 プロフィール

昭和15年福岡県生まれ。昭和38年学習院大学政経学部卒業。麻生セメント(株)代表取締役社長、日本青年会議所会頭を経て、昭和54年衆議院初当選(以降当選9回)。平成8年経済企画庁長官、13年経済財政政策担当大臣、党政務調査会長、15年総務大臣、17年外務大臣、19年党幹事長、20年党幹事長。

昭和51年モンテリオールオリンピック射撃(クレー・スキート競技)に日本代表として出場。現在、(社)日本クレー射撃協会会長、日本女子バスケットボール機構会長、(財)日本釣振興会会長など。